

## 杉 亨 二 に つ い て



- ◆ 明治4年12月24日に太政官正院に設置された政表課(統計局の前身)担当の大主記に任ぜられたことから、初代の統計局長と言われる
- ◆ 明治維新後の我が国の近代化において人口調査の必要性を説き、明治12年には国勢調査の試験調査とも言うべき「甲斐国現在人別調」を実施
- ◆ 我が国の統計学の開拓者にして、近代統計調査の先駆者であり、統計教育の先駆者でもあった

## 杉 亨 二 が 統 計 を 志 し た 動 機

- ◆ 統計を志した動機について、自叙伝で次のように記している。「開成所で翻訳をしているうち、…バイエルの教育のことを書いたものがあった。それには、100人の中で読み、書きの出来る者が何人、出来ない者が何人ということが書いてあった。その時に、こういう調べは、日本にも入用なものであろうということを深く感じた。これが、私のスタチスチックに考えを起した種子になったのである。…若年の頃より、折角人間に生まれた上は、人のすることは人がする、どうか人の為さぬことをしておきたいという一念が、どこやら心に存していた。これが、私の心にスタチスチックの種を撒いたように覚える。」

## 「 甲 斐 国 現 在 人 別 調 」 の 実 施

- ◆ 現在人別の調査は基本であり、国家に必要なこととして、全国総人員の現在調査を計画し、その実施の前に、具体的な実施方法、調査の問題点、調査経費等の大体の目処を知るため、甲斐国(現在の山梨県)を実地に調査することとした
- ◆ 調査は、明治12年12月31日午後12時を期して実施
- ◆ この調査は、実際に住んでいる人を調査したもので、地域こそ甲斐国に限られたが、我が国の国勢調査の先駆けをなすもの

## 共立統計学校の設立など人材の育成

- ◆ 統計院は明治15年5月、杉の意見を容れて統計学教授所設立についての上申書を政府に提出したが、却下された
- ◆ このため、杉を始め統計院の職員有志が発起人となって、明治16年3月に九段坂下の陸軍用地を借り受け、同年9月に共立統計学校を開校し、自ら教授長となって統計専門家の養成に当たる
- ◆ 同校は、明治19年3月に閉校となったが、第1回の卒業生36名と修学証明者27名を出した

## 統計学社の設立など統計の民間普及

- ◆ 明治9年2月、政表課員を始めとする有志を集めて統計学研究のため、「表記学社」(同社は、その後、「スタチスチック社」、「統計学社」に改称)を設立
- ◆ また、明治11年12月には、「製表社」(同社は、その後、「統計協会」、「東京統計協会」に改称)を設立し、統計学術の普及発展に寄与